



家電は日本のものづくりの象徴です

俳優 細川 茂樹氏

1980年代に少年時代を過ごした僕にとって、家電はまさに憧れの対象。ラジカセ、ウォークマン、リモコン付きテレビ……。あのころは魅力的な新製品がどんどん誕生して、日本がすごく元気のある時代だったと思います。洗濯機が二槽式から全自動に変わったり、当時は珍しかった乾燥機がわが家にやってきたりすると、僕が直接使用うものでなくても、すごくワクワクしたことを覚えています。

数年前、あるテレビ番組で「家電俳優」として紹介されましたが、このように子どものころからずっと家電は好きだったし、今も家電に寄せる思いは変わりません。先日、自宅に家電製品がどれだけあるか数えてみたら、全部で60台以上ありました(笑)。家電って、一家に一台である必要はないと思ってるんです。例えば、わが家にはテレビが5台、扇風機も5台、洗濯機は3台あります。それぞれ機能が違うので使い分けています。

キッチン家電で最近いいなと思ったのが、あるホットサンドメーカーです。工業用電熱線をつくっている会社が自社技術を応用して、ホットサンドを焼く器具を開発しま

した。コンセプトは「男のホットサンド」。無名な製品ながら優れた電熱技術を駆使しているので誰でもすごくおいしく焼ける。こういう製品こそたくさんの人に知ってほしい。そう思っ、ある番組で紹介したら、「全国の売場から製品がなくなりました」と社長さんから手紙をいただきました。僕の感動を多くの人たちに伝えることができたことを実感しました。うれしかったですね。

最近、日本のものづくりは元気がないと言われています。しかし魅力的な心に響く製品をつくっている企業はたくさんあることを僕は知っています。たまたま僕は人前に出させていただく仕事をしているので、そういう製品を見つけて紹介することも、自分のひとつの役割だと感じています。

日本はすごく勤勉な国だし、それが最もよく表れているのが日本のものづくりではないでしょうか。クールジャパンという言葉がありますが、実は日本人の勤勉さに裏打ちされた日本のものづくりこそ一番のクールジャパンだと僕は考えています。自分の仕事を通して、日本のものづくりの素晴らしさを伝えていけたらと思っています。(談)



細川 茂樹（ほそかわ・しげき）

1971年岐阜県生まれ。テレビ朝日「仮面ライダー響鬼」、NHK大河ドラマ「義経」など多くのドラマ・映画に出演するほか、家電についての造詣が深く情報番組などでも活躍。その家電愛と家電選びのノウハウはエッセイ『家電俳優』（ワニブックス）にもまとめられている。